

令和元年11月15日

太田市議会議長

久保田 俊 様

太田クラブ 代表 白石さと子 ㊟

会派行政視察報告書

- 1 期日 令和1年11月7日(木)から11月8日(金)までの2日間
- 2 視察地 霧島市(第81回 全国都市問題会議)
- 3 視察事項 (1) 鹿児島県霧島市
① 第81回 全国都市問題会議
- 4 参加者 10名
白石さと子 山田 隆史 木村 康夫 斎藤 光男
正田 恭子 渡辺謙一郎 大川 敬道 中村 和正
木村 浩明 八長 孝之
- 5 視察概要 別紙のとおり

全国市議会議長会研究フォーラム 「防災とコミュニティ」

<11月7日(木)>

○基調講演

「鹿児島市の歴史から学ぶ防災の知恵」

志学館大学人間関係学部教授 原口 泉氏

○主報告

「霧島市の防災の取り組みー火山防災ー」

鹿児島県霧島市町 中島 真一氏

○一般報告

「災害とコミュニティ：地域から地域防災力強化への答えを出すために」

尚綱学院大学人文社会学長 田中 重好氏

○一般報告

「平成30年7月豪雨災害における広島市の対応と取り組みについて」

広島県広島市長 松井 一實氏

○一般報告

「火山災害と防災」

防災科学技術研究所火山研究推進センター長 中田 節也氏

<11月8日(金)>

パネルディスカッション

パネリスト：専修大学人間科学部教授 大家根 淳氏

香川大学地域強靱化研究センター特命教授 磯打 千雅子氏

霧島市国分野口地区自治公民館長 持留 憲治氏

静岡県三島市長 豊岡 武士氏

和歌山県海南市長 神出 雅己氏

(1) 所感

太田市においても台風19号による被害が出てしまった事もあり会議の主題でもある「防災とコミュニティ」については、大変重要度においても関心についても高い内容であった。

特に平成30年7月豪雨災害で被害にあった広島市の松井一貫市長の報告にあった「災害は身近に起こりえるもの」という言葉や実際に災害に遭われた後の対応等について、他の講師の方々から何度も話に出てきた自助・共助という言葉と、その大切さ、重要さが特に印象に残った。

特にコミュニティでは、近年、希薄になりつつあるコミュニティをいかに形成するかが課題でもあるとの話を伺い、自分の命は自分で守るという意識付けはもちろんの事、普段から防災における地域のコミュニティの形成と役割(避難誘導訓練等)をまずは自治体が主導となって形成する事が必要と感じた。そして、

その地域で抱えている問題はその地域で解決するとの話を聞き、地域ごとに「高齢者が多い地域」「若者世代が多い地域」「妊婦がいる」「避難場所が遠い」等々、抱えている課題は違うためその地域ごとに話し合い解決する等事は大変重要な事と感じた。

実際に災害が起きた際には自治体といった大きなコミュニティよりも行政区のコミュニティ、それ以上に町内単位、もっと言えば隣近所組合での単位でコミュニティを形成し行動をする方がより行動がしやすく、情報も共有しやすい。公助に頼るばかりではなく、平常時からいかに自助・共助の考えを基に「防災について」を意識し、想定し行動する事が市民一人ひとりに改めて求められると感じた。

今回の全国都市問題会議に参加をさせて頂き、本市でも「災害が少ない地域だから」「まだ大丈夫」と非難をしなかった方もいたと伺い、自助という面で改めて防災についての意識付けが必要であり、隣近所の方を自宅の2Fへ避難させて一緒に過ごした等の話を伺い、共助という面で改めて小さなコミュニティの構築が必要と考えさせられた部分も大変多くの事を学びえる事ができた。

今後、本市において災害時に被害者が出る事の無い様に、また、市民の安心、安全が守られるように調査研究を行っていく。

